

インカ・ショニバレ CBE 《ウィンド・スカルプチャー(SG)II》設置記念 講演会・シンポジウム



福岡市美術館
FUKUOKA ART MUSEUM

福岡市制施行130周年及び福岡市美術館開館40周年を記念して制作された
インカ・ショニバレ CBE による《ウィンド・スカルプチャー(SG)II》が、
いよいよ7月1日より公開されます。

この作品の鮮やかで大胆な柄は、「アフリカプリント」の文様を
ベースにデザインされており、布がはためく形は船の帆を思わせ、
交流や多様性を象徴しています。

作品の完成を記念して、《ウィンド・スカルプチャー(SG)II》が
美術館に設置されるまでについての講演会と、
この作品が象徴する美術館の未来像についての
シンポジウムを開催します。



インカ・ショニバレ CBE 大型屋外彫刻作品
《ウィンド・スカルプチャー(SG)II》(設置イメージ)

インカ・ショニバレ CBE 《ウィンド・スカルプチャー(SG)II》設置記念

講演会 2021年7月10日(土)

インカ・ショニバレ CBE
《ウィンド・スカルプチャー(SG)II》が
福岡市美術館に来るまで

講師：岩永 悦子(福岡市美術館館長)

シンポジウム 2021年7月31日(土)

新しい美術館像
～コロナ禍のなかで考える

パネリスト：逢坂恵理子(国立新美術館長)
中山喜一郎(福岡市美術館総館長)
岩永 悦子(福岡市美術館館長)

場所 / 福岡市美術館 1階ミュージアムホール

定員 / 180人 参加無料(先着順・13:00より整理券配布 / 13:30開場)

※ 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、定員等変更になることがあります。

【お問い合わせ】 福岡市美術館 TEL:092-714-6051 (開館日 9:00~18:00)

【講演会】2021年7月10日(土) 14:00～15:30

インカ・ショニバレ CBE 《ウィンド・スカルプチャー(SG)II》が 福岡市美術館に来るまで

講師：岩永 悦子

本年7月1日より、福岡市美術館の公園口にて、インカ・ショニバレ CBE による大型彫刻作品《ウィンド・スカルプチャー(SG)II》が公開されます。

講演会では、福岡市美術館の活動とインカ・ショニバレ CBE の接点、コロナ禍のなかでの作品制作・輸送の様子など本作品が福岡市美術館に設置されるまでの道のりと、未来の福岡にとっての作品の位置づけを語ります。



【シンポジウム】

2021年7月31日(土) 14:00～16:00

新しい美術館像

～コロナ禍のなかで考える

未曾有のウイルス蔓延に伴い、この1年半の間、世界中のミュージアムが休館を余儀なくされ、開館後もコロナ以前のような活動を行えない状況が続きました。今もまだその渦中にあります。

第一波が押し寄せたころ、福岡市美術館はちょうどリニューアル1年目を迎える時期でしたが、その節目でのコロナ禍による休館で、これまで以上に社会における存在意義を考えさせられました。おそらく、当館だけでなく、多くの美術館が自らの社会的な意義を考える1年半となったのではないのでしょうか。

一方、コロナ禍中の7月1日に、インカ・ショニバレ CBE による屋外立体彫刻《ウィンド・スカルプチャー(SG)II》が設置されます。多様性や交流を象徴するこの作品は、いわば福岡市美術館の現在から未来に向けての社会に対する態度であると言えるでしょう。また、この作品設置を機に、当館の新しい「ミッション・ステートメント」も公開されます。

当館の未来への抱負ともいうべき2つの事柄と、コロナ禍という社会を揺るがす災厄を踏まえ、このシンポジウムでは、コロナ後の社会に思いを巡らせ、福岡市美術館のあるべき姿を描き出します。



◆スケジュール

- 14:00 …リニューアル後の福岡市美術館について
岩永 悦子
- 14:15 …〈基調講演〉
「新しい美術館像 ～コロナ禍のなかで考える」(仮)
逢坂恵理子
- 15:00 …休憩
- 15:15 …〈シンポジウム〉
「コロナ禍後の福岡市美術館を描き出す」
パネリスト 逢坂恵理子
中山喜一郎
岩永 悦子
- 16:00 …終了

パネリスト プロフィール



逢坂 恵理子 国立新美術館長

東京都生まれ。水戸芸術館現代美術センター主任学芸員、同センター芸術監督を経て、2007年より森美術館アーティスティック・ディレクター。2009年より2020年3月まで横浜美術館館長。2019年10月より現職。また、1999年第3回アジア・パシフィック・トリエンナーレで日本部門コ・キュレーター、2001年第49回ヴェニス・ビエンナーレで日本館コミッショナー、2011年第4回から2020年第7回の横浜トリエンナーレにおいて、総合ディレクター、横浜トリエンナーレ組織委員会委員長、コ・ディレクターなどをつとめる。



中山 喜一郎 福岡市美術館総館長

専門分野は日本近世絵画。1981年より福岡市美術館学芸員。1995年に福岡市博物館主任学芸主事、同館学芸課長を経て、2012年から福岡市美術館学芸課長。2015年に同館副館長となる。2019年に同館館長、2020年より現職。
主な著書として『別冊太陽 春のあふれる禅のこころ 仙厓』(監修・共著、平凡社、2016年)、『仙厓の〇△□ 無法の禅画を楽しむ法』(弦書房、2003年)など。



岩永 悦子 福岡市美術館館長

アジアの染織が主な専門分野。1987年より福岡市美術館学芸員。2015年より同館学芸課長、運営部長を経て、2021年より現職。これまで担当した主な展覧会は、「藤田嗣治と彼が愛した布たち」(2020年)、「更紗の時代」(2014年)、Tsumagaki Textile indigo du Japon (「筒描 日本の藍染」展、フランス国立ギメ東洋美術館、2013年)「織り・染め・縫いの宇宙 インドネシア・スマトラ島の染織」(1999年)、「アジア現代美術作家シリーズ V タン・ダウ展」(1991年)など。